# たからづか文化財さんぽマップ

モデルコース
全域マップ

# たからづかの歴史

六甲山系と長尾山系の麓に位置する宝塚市内には数多くの歴史遺産があり、古くは**弥生**時代や**古墳**時代に遡ります。特に古墳は市名の由来にもなっており、長尾山古墳や万籟山古墳をはじめ、全国的にも貴重な古墳が多く見つかっています。

仏教文化も早くからもたらされ、中山寺や清荒神清澄寺などをはじめ古くから残る寺院があり、**古来**より参詣者が多く、街道には百基近くの道標が残されています。

**中世**には西谷地域などが摂津多田源氏の支配下となり、仏教文化の影響を受けた様々な石造美術が作られました。また、小浜地域では明応年間（15 世紀末）に浄土真宗の寺院である毫摂寺を中心に「寺内町」として発展し、**江戸**期には交通の要衝であることから「宿場町」として栄え、西摂地域の重要な拠点の一つとなりました。

**明治**になると、宝塚では近代温泉が発見され、阪鶴鉄道（現 JR 宝塚線）や箕面有馬電気軌道（現阪急宝塚線）の敷設によって、大阪や神戸から湯治客が多くやって来るようになりました。

**大正** 3 年（1914）には宝塚少女歌劇（現宝塚歌劇団）が上演され、その人気から全国的に有名になり、「歌劇と温泉のまち」として発展しました。また、雲雀丘・花屋敷周辺では西洋建築の洋館が建ち並ぶ洋風な景観が広がり、宝塚はモダンなまちとして人々に認識されていきました。

# 目　次


**逆瀬川・小林・仁川 エリア** …… 1～2

①平林寺　②伊和志津神社　③熊野神社　④高司素盞嗚神社　⑤宝塚神社
⑥小林聖心女子学院本館　⑦五ヶ山古墳群　⑧仁川旭ガ丘古墳群
⑨逆瀬川砂防堰堤　⑩塩尾寺　⑪旧松本邸

ちょこっとブレイク１　たからづかの民話「鹿の鏡井戸」

**清荒神・売布・中山 エリア** …… 3～4

⑫中山荘園古墳　⑬清荒神清澄寺　⑭中山寺　⑮白鳥塚古墳
⑯中山寺奥の院　⑰中筋山手古墳群　⑱旧清遺跡　⑲売布神社
⑳中筋山手東古墳群　㉑八王子神社　㉒中筋八幡神社

ちょこっとブレイク２　たからづかの民話「冥土へ行ってきた話」

**雲雀丘・山本 エリア** …… 5～6

㉓長尾山古墳　㉔切畑群集墳１号墳　㉕万籟山古墳　㉖満願寺　㉗最明寺滝
㉘万年坂地蔵石仏　㉙八坂神社　㉚大宝寺　㉛泉流寺　㉜松尾神社
㉝天満神社　㉞行基の投げ石　㉟高碕記念館

ちょこっとブレイク３　たからづかガイド「木接太夫」㊱

**小浜・米谷・安倉 エリア** …… 7～8

㊲毫摂寺　㊳旧和田家住宅　㊴首地蔵　㊵小浜宿資料館　㊶安倉高塚古墳
㊷安倉住吉神社　㊸寛文八年道標　㊹小浜皇大神社　㊺伊孑志の渡し

ちょこっとブレイク４　たからづかの民話「毫摂寺の亀姫」

**大原野・波豆 エリア** …… 9～10

㊻波豆八幡神社　㊼波豆石造美術群　㊽普明寺　㊾大原野素盞嗚命神社
㊿宝山寺　(51)長谷素盞嗚神社　(52)波豆地蔵石龕　(53)阿弥陀石龕　(54)大日堂
(55)丸山湿原　(56)松尾湿原　(57)旧東家住宅

ちょこっとブレイク５　たからづかガイド「武田尾の温泉」(58)

**街道・道標** …… 11～12


国　国指定文化財
国登　国登録文化財
県　県指定文化財
県登　県登録文化財
市　市指定文化財

# 逆瀬川・小林・仁川エリア

西宮道の道筋には、歴史ある寺社が多く残っています。また、六甲山麓の高地まで足を延ばすと、弥生時代の高地性集落・古墳時代の群集墳が残り、眺望も楽しめます。

## ① 平林寺（本尊・石造物：市有形文化財）

市

聖徳太子の開創と伝えられる。境内に置かれている石造露盤は宝形造のお堂の屋根に置かれるもので、鎌倉時代のもの。本尊は木造釈迦如来坐像。

## ② 伊和志津神社（本殿：市有形文化財）

市

平安時代に書かれた「延喜式」に名を残す古い神社。本殿は柿葺の一間社春日造。かつては武庫川の川辺近くにあったが、大洪水による水害を避けるため今の場所に移された。

## ③ 熊野神社

鹿塩村に伝わる村名の由来となった鹿の民話ゆかりの地。かつては1月3日に厄払いと五穀豊穣を占うお弓神事が行われた。

## ④ 高司素盞嗚神社（本殿：県有形文化財）

県

本殿は江戸時代前期、左右の相殿は江戸時代中期建立。江戸時代の優れた建築様式が残る。覆屋内に保護される。

## ⑤ 宝塚神社

明治以前は山王権現と称して崇拝を受けていたが、昭和40年（1965）に素盞嗚神社と合祀し改名。1月10日には「宝のえびす」の祭でにぎわう。

国登

## ⑥ 小林聖心女子学院本館

（国登録文化財 / 非公開）

昭和２年（1927）建築。チェコの建築家アントニン・レーモンド氏が曲線などを生かしたデザインで設計した鉄筋コンクリート造りの建物。

## ⑦ 五ヶ山古墳群

（4 号墳：市史跡）

## ⑧ 仁川旭ガ丘古墳群

6世紀末から7世紀初頭にかけて六甲山麓に築かれた群集墳。

市

↑五ヶ山古墳群４号墳は公園内に保存されている。弥生時代に築かれた高地性集落の範囲にある。

←仁川旭ガ丘古墳群
1・3 号墳の２基が残る。

## ひと足のばして ……

## ⑨ 逆瀬川砂防堰堤

明治時代後半、全国の先駆として築かれた砂防堰堤。水害減少に大きく貢献した。

## ⑩ 塩尾寺

宝塚温泉源泉にゆかりのある柳の木を彫って観音像として祀ったという縁起伝説がある。

国登

## ⑪ 旧松本邸

（国登録文化財 / 期間公開）

昭和 12 年（1937）建築の木造洋館。建築当時の姿を残しモダンな西洋スタイルを伝える。

## ちょこっとブレイク 1

### たからづかの民話『鹿の鏡井戸』

奈良時代の頃、都のある奈良の春日大社へ、各地域から鹿が神の使いの手伝いをするために集まっていました。

熊野神社の祭りの日には、毎年春日大社の使いがくるならわしとなっていて、その年も、雄鹿と雌鹿が供物を背中に積んできました。

旅の疲れで眠ってしまった雌鹿を置いて、雄鹿が出かけている間に、目を覚ました雌鹿は、雄鹿の姿を探している間に、井戸に映った自分の姿を雄鹿と見誤り、井戸と気づかず飛び込んでしまいました。

村人は雌鹿を哀れみ、鹿の屍を丁重に塩で包んで、春日大社に送り届けました。

このことにちなんで村名を「鹿塩」と名付けることにしたそうです。

また、お祭りには塩を一切使わなくなったことからお祭りは「しおたち祭り」と呼ぶようになりました。

# 清荒神・売布・中山エリア

古来より有名な寺社がのこる地域で、市内外から多くの人が訪れます。また、住宅開発も進み、歴史ある景観と現代の街並みが融合しています。

## ⑫ 中山荘園古墳

国

（国史跡）

八角形を呈した全国的にも非常に珍しい形の古墳。7世紀中頃に造られたと考えられている。

八角形の古墳は奈良県明日香地方を中心とする天皇陵にみられる形とされており、なぜ当地にこのような古墳が造られたかは分かっていないが、この地域の歴史を考える上で重要な古墳とされている。

## ⑬ 清荒神清澄寺

国 市

（本尊:国重要文化財・自然林:市天然記念物 他有）

宇多天皇より「日本第一清荒神」という称号を与えられ、「かまどの神様」として信仰を集めている。

本尊は大日如来坐像。

## ⑭ 中山寺

国 県 市

（本尊：国重要文化財・ 本堂：県有形文化財・星下り祭：市無形民俗文化財 他有）

聖徳太子が開いたと伝えられ、安産信仰や西国三十三所 24 番札所として有名で、本尊の十一面観音菩薩立像をはじめ、多くの文化財がある。

## ⑮ 白鳥塚古墳

県

（県史跡）

中山寺の境内の中にある横穴式石室の古墳。

7世紀初め頃に造られた豪族の墓と考えられている。石室内には大きな家形石棺が残る。

### ひと足のばして ……

## ⑯ 中山寺奥の院

中山寺から 18 丁に旧寺地があったとされる。付近に瓦片が散乱する場所もあり、大悲水と白鳥の窟など中哀天皇の皇子にまつわる伝承も残る。大悲水は厄除けの水として人々の信仰を集めている。

## ⑰ 中筋山手古墳群（なかすじやまてこふんぐん）

市

（１号墳：市史跡）

長尾山丘陵に造られた群集墳のうち西端に位置する。１号墳は６世紀末頃に築造された横穴式石室を持つ径 15 m程の円墳で、公園の中に保存されている。

## ⑱ 旧清遺跡（もときよし）

市

（市史跡）

清荒神清澄寺の旧寺地と考えられている遺跡。平安時代後期に建立され、戦乱等で火災にあい、江戸時代初めに現在の場所に移ったとされる。

## ⑲ 売布神社（め ふ じんじゃ）

市

（社号標石:市有形文化財・社叢:市天然記念物）

「延喜式（えんぎしき）」記載の神社で食物と衣服の神様を祀る。江戸時代には貴船大明神と呼ばれていた。

## ⑳ 中筋山手東古墳群（なかすじやまてひがしこふんぐん）

市

（２号墳：市史跡）

６世紀後半～7世紀前半に造られた群集墳。１～３号墳が残る。２号墳の石室は玄室の中央に間仕切りがある複室（ふくしつ）で、希少な形状をしている。耳環（じかん）が8点出土。

## ㉑ 八王子神社（はちおうじじんじゃ）

市

（板碑：市有形文化財）

阪神・淡路大震災で被害を受けたが、平成14年（2002）に再建された。境内には正応三年（1290）の年号が入った市内最古の板碑（いたひ）がある。

## ㉒ 中筋八幡神社（なかすじはちまんじんじゃ）

国

（本殿：国重要文化財）

室町時代に建立された檜皮葺（ひわだぶき）の本殿は、阪神・淡路大震災の時に倒壊したが、平成８年（1996）に残った部材で修復した。

## ちょこっとブレイク ②

### たからづかの民話『冥土（めいど）へ行（い）ってきた話（はなし）』

数百年むかし、清澄寺に尊恵上人（そんけいじょうにん）という偉いお坊さんがいました。ある夜、上人の前に男が現れ閻魔（えんま）大王からの書状を差し出しました。それには「閻魔城で十万人の僧を集め法華経（ほけきょう）を転読（てんどく）するので参列せよ」と書かれており、上人は「私の命もここまでか」と悟（さと）りました。ところが、閻魔大王は参列した上人に「そなたは生前の行いが大変立派だ。再び現世に帰り清澄寺で心して学ぶよう」と言い、「この経文は山中の宝塔（ほうとう）の下に埋めよ」と、銀の箱に入った経文十一巻を贈りました。その後、上人は人々に教えを説き続け、しばらくして有馬の清涼寺に移りました。ある日、上人が教えを説いた帰り道、宝塔の下から湯気が上がっているのを見つけて掘ると、お湯が湧（わ）きました。このお湯が有馬温泉の元と伝えられています。その二百年後、村人が小山の下から経典などが収められた銀の箱を見つけ出し、修行僧達の大事な学問書となったといいます。

# 雲雀丘・山本エリア

閑静な住宅地として宝塚における郊外住宅地の一つ。特に雲雀丘・花屋敷地区には洋風のモダンスタイルを志向した町並みが広がっています。

## ㉓ 長尾山古墳（市史跡）

平成19年から行われた学術調査の結果、4世紀初頭に造られた全長約42mの前方後円墳であることが判明した。内部に、長さ6.7m・幅2.7m・高さ1mの巨大な粘土郭（木棺を粘土で覆った埋葬施設）が発見された。

## ㉔ 切畑群集墳1号墳（市史跡）

雲雀丘から中山寺の辺りにかけてある長尾山丘陵に、6〜7世紀にかけて群集墳と呼ばれる多くの古墳が造られた中のひとつで、最も東の標高約120mの尾根上に立地する。横穴式石室を持つ直径約15mの円墳で、この地方の有力者の墓と考えられている。

## ㉕ 万籟山古墳（市史跡 / 非公開）

長尾山丘陵に位置し、大阪平野をみおろす標高約200mの山頂尾根に築かれた、4世紀頃の前方後円墳。全長約64m、後円部には長さ6.8mほどの竪穴式石室があり、石室の床面には木棺が置かれていた跡がU字型で残っている。

## ㉖ 満願寺（社叢：市天然記念物）

コジイ・檜・アラカシなどによる瀬戸内海沿岸に発達する典型的なシイ林。寺地は多田に本拠をおいた源満仲が帰依して繁栄した関係などから、川西市の飛地になっている。

## ㉗ 最明寺滝

出家して最明寺入道と呼ばれた鎌倉幕府の5代執権北条時頼が、この地に庵を結んだといわれたことが名前の由来。

## ㉘ 万年坂地蔵石仏（市有形文化財）

雲雀丘から満願寺へ向かう途中の通称「万年坂」にある花崗岩の自然石に彫られた地蔵立像。

## ㉙ 八坂神社

市

（本殿：市有形文化財）

源頼光の重臣、藤原保昌がこの地に住みこの里の鎮守として京都八坂の牛頭天王をまつったのが始まりとされる。本殿は16世紀中頃（室町時代後期）のものと推定される。

## ㉚ 大宝寺

市

（石造物他：市有形文化財）

曹洞宗の寺。創建などの詳細は不明。不動堂にある不動明王坐像は室町時代末頃のものと推定されている。境内にある宝篋印塔は月輪内に胎蔵界四仏の種子を刻んだ鎌倉時代末頃のもの。

## ㉛ 泉流寺

市

（本尊：市有形文化財）

曹洞宗の寺院。本尊の木造十一面観音菩薩像は、居眠りをしたため西国の観音霊場三十三所に入れてもらえず、それを悔やんだことから、特に居眠りでの失敗に御利益が大きいと伝えられ、「ねむり観音」として地元では親しまれている。

## ㉜ 松尾神社

市

（本殿：市有形文化財）

安和年間（968～970）に坂上田村麻呂を祭神として創建されたと伝わる。田村麻呂の幼名「松尾丸」から松尾丸社とも呼ばれた。現在の本殿は江戸時代前期のもの。

## ㉝ 天満神社

市

（本殿：市有形文化財）

巡礼街道沿いにある菅原道真を祭神とする神社。創建時期は不明だが現在の本殿は江戸時代前期のもの。春日造の柿葺で向拝の木鼻は左右をア・ウンの唐獅子に彫ってある。

## ㉞ 行基の投げ石

天満神社の東にある黒光稲荷大明神のほこらのそばにある。「行基が街道にあった邪魔な岩を投げ飛ばしたもの」や「天狗が六甲山から投げたもの」などといわれているが、付近にあった古墳の天井石の一つかもしれない。

## ちょこっとブレイク 3

たからづか ガイド

『木接太夫』

マップの番号 ㊱

木接太夫彰徳碑

400年ほど前、豊臣秀吉の家来に山本荘司・坂上頼泰という武士がいました。彼は非常に優秀な家来でしたが、老後は争いごとから離れ、故郷の山本郷に隠居するようになり、名を山本膳太夫と改めました。彼は花草が好きで、「接木」と呼ばれる植物の品種改良を成功させました。この功績を秀吉が称え、膳太夫に「木接太夫」の称号を与えました。現在阪急山本駅のすぐ西に膳太夫を称える「木接太夫彰徳碑」が建てられています。

## ㉟ 高碕記念館

（市景観重要建造物）

大正12年（1923）にウィリアム・M・ヴォーリズによって設計された。木造2階建て腰折れ屋根のコロニアルスタイルが特色の建物。（見学は要予約）

# 小浜・米谷・安倉エリア

小浜地域は、中・近世に栄えた寺内町の面影を残し、風情ある町並みを楽しむことができます。安倉地域は、高速道路のインターチェンジがあり、宝塚の玄関です。

## ㊲ 毫摂寺

浄土真宗本願寺派の寺で「小浜御坊」とも呼ばれている。創建などの詳細は不明だが、真宗寺内町として布教を目的とした防御的性格の強い寺で、近畿一円に置かれた他の真宗寺院と同様の性格を持つと考えられている。

## ㊳ 旧和田家住宅 （市有形文化財）

市内に残る最古級の民家。江戸時代の中頃までに築かれ、角屋座敷などの特徴を持っている。

旧所有者の和田家は代々、米谷村飯野藩の庄屋をつとめ、多くの古文書が残されており、その古文書の一部を展示している。（入館無料、月曜・年末年始休館）

## ㊴ 首地蔵

首から上の病気にご利益があるといわれる。「洪水で武庫川の上流から流れてきた」「伊丹の殿様が祀った」などと伝わる。

## ㊵ 小浜宿資料館

小浜地域は 15 世紀末に毫摂寺の寺内町として発展し、江戸時代には大阪・京都・有馬・西宮を結ぶ交通の要衝であったことから宿場町として繁栄し、酒造りや大工の町としても知られていた。資料館は小浜町並模型や大工道具などを展示しており、併設する企画展示室では宝塚に関する展示を公開している。（入館無料、月曜・年末年始休館）

## ㊶ 安倉高塚古墳（市史跡）

市

４世紀末頃に造られた円墳。川原石積みの竪穴式石室から赤烏七年 (244、中国・呉 ) の年号が入った銅鏡などが出土。

## ㊷ 安倉住吉神社

天長２年（825）の創建と伝えられ、江戸時代には誉田別安鞍住吉神社とも称されていた。誉田別は応神天皇のことで、狩りの際に馬の鞍を休めたところと伝わる。

## ㊸ 寛文八年道標（市有形文化財）

市

有馬街道の伊丹と尼崎の分岐点に立つ。通称「姥ヶ茶屋」。寛文八年（1668）の銘は、兵庫県下の道標で最古のものの一つ。

## ㊹ 小浜皇大神社

県登　市

（本殿：県登録文化財・制札：市有形文化財）

天照皇大神と天児屋根命を祭神とする神社。境内には小浜戎も祀る。

## ㊺ 伊子志の渡し

西宮街道の武庫川を越えるところでは、江戸時代から大正の頃まで橋がなく、「伊子志の渡し」と呼ばれる渡し舟があった。

## ちょこっとブレイク 4　たからづかの民話「亀摂寺の亀姫」

戦国時代のある日、豊臣秀吉の養子で跡取りであった秀次が亀摂寺を訪れました。秀次は住職の次女「亀姫」の美しさに惹かれ、側室に迎えることにしました。秀次は亀姫をとても大切にし、「小浜の局」と名乗らせ平和で楽しい日々を過ごしました。

ところが、秀吉に実子が産まれると、秀吉は秀次の存在を疎ましく思います。その事に気づき不安に思っていた秀次は、ある夜、酒に乱れ通りすがりの人々を切り捨ててしまいました。辻斬りが横行していた京の町の人は、すべて秀次の仕業と噂します。噂を耳にした秀吉は、これ幸いにと「秀次に謀反の疑いあり」と言い、秀次だけでなく亀姫を含め一族の処刑を命じます。

美しい亀姫をみた人々は「あれほどの美しい方が哀れなものよ」と嘆願の声をあげました。また、亀姫の実家である亀摂寺も秀吉によって焼かれてしまったのです。

# 大原野・波豆エリア

宝塚の北部に位置し、田園風景が残る緑あふれる地域です。古くからの石造物や文化財も豊富で、散策や自然体験も楽しめます。

## ㊻ 波豆八幡神社

国 県

（本殿：国有形文化財
石造鳥居：県有形文化財）

誉田別尊（応神天皇）を祭神とし、源満仲の弟満政の創建と伝えられている。現在の本殿は応永 10 年（1403）に建てられたもので水源池に面して立つ石造鳥居は、応永 32 年（1425）のもの。

## ㊼ 波豆石造美術群

県 市

（一部：県・市有形文化財）

波豆八幡神社の境内の西端にある。境内東側の斜面にあった金福寺に立っていたが、水源池を造る際に水没することからここに移された。

## ㊽ 普明寺

県 市

（石造物：県有形文化財
絵図他：市有形文化財）

源満仲にまつわる龍馬神の雨乞い伝説が伝わる。宝篋印塔などの石造や四天王を描いた厨子扉絵（木製）がある。

## ㊾ 大原野素盞嗚命神社

市

（社叢：市天然記念物）

社叢に囲まれた神社。檜・モミ群落など 3 群落で構成され、樹齢 400 年を超える杉の巨木が 2 本あり、幹廻りは 7 mにもなる。

ダリア花つみ園のダリア
（上佐曽利）

## ㊿ 宝山寺（ほうさんじ）

市

（ケトロン祭:市無形民俗文化財）

十一面観音菩薩を本尊とし、疫病よけとして中世以来の民俗行事「ケトロン」が 8 月 14 日夜に行われている。

## 51 長谷素盞嗚神社（ながたにすさのおじんじゃ）

県

（本殿：県有形文化財）

本殿の前にある長床（ながとこ）（舞台）の床下をくぐって参拝する変わった形式の参道がある。本殿は三間社（さんげんしゃ）切妻造（きりつまづくり）で江戸時代初期のもの。

## 宝塚自然の家敷地内

## 56 松尾湿原（まつおしつげん）

市

（市天然記念物）

沖積土の不透水層上に発達した谷湿原で、オオミズゴケ、サワヒヨドリ、サワギキョウ、カキランなどが生育している。

## 52 波豆地蔵石龕（はずじぞうせきがん）

市

（市有形文化財）

羽束川（はつかがわ）の橋のたもとにある。応永二十四年（1417）と彫られており、室町時代に造られたものとされる。

## 53 阿弥陀石龕（あみだせきがん）

市

（市有形文化財）

鎌倉時代後期のもの。阿弥陀如来と合掌する男女の坐像を彫っている。

## 57 旧東家住宅（きゅうひがしけじゅうたく）

県

（県有形民俗文化財）

江戸時代中期に建てられた西谷地域の典型的な農家。移築し歴史民俗資料館として公開している。宝塚自然の家開所日のみ見学可。

## 54 大日堂（だいにちどう）

市

（本尊：市有形文化財）

本尊の大日如来坐像（だいにちにょらいざぞう）は寄木造（よせぎづくり）。全体に漆箔（しっぱく）が施されている。

## 55 丸山湿原（まるやましつげん）

県

（県天然記念物）

大小 5 つの湿原群からなり、植物種数は 45 と最多で、湿原面積も県下最大クラスになっている。

## ちょこっとブレイク 5 たからづかガイド 『武田尾（たけだお）の温泉』

マップの番号㊽

宝塚市には武田尾と呼ばれる山々に囲まれた地域があり、江戸時代に豊臣（とよとみ）方の落武者であった武田尾直蔵（たけだおなおぞう）が発見したと伝えられている武田尾温泉があることで有名です。
武庫川の渓谷美や、季節によって彩の変わる山々を見ながらハイキングを楽しむことができます。

# 街道・道標

## 巡礼街道

勝尾寺（箕面市）～平井～山本～中山寺～川面～生瀬（西宮市）～清水寺（加東市）

和歌山県那智の青岸渡寺を 1 番札所とし、岐阜県の華厳寺を結願札所とする西国三十三所観音霊場をめぐる道で、平安時代、花山法皇により創設されたと伝えられる。中山寺は 24 番札所で 23 番の勝尾寺から 25 番の清水寺に至る道筋が残っており、江戸期以降、民衆の巡礼の増加により市内には多くの道標が残っている。

## 京伏見街道

京都～伏見～山崎～郡山～瀬川～半町～池田～加茂～小浜～生瀬～名塩

慶長 10 年（1605）の摂津国絵図などに描かれた古い街道の一つで、京都との交易に使われた道筋。片桐且元によって出された慶長 11 年（1606）の触書によって、小浜がこの街道の主要な駅所、馬継ぎ所であったことがわかっている。

## 丹波街道

伊丹～口谷～平井～満願寺～丹波篠山

酒造りの季節職人である杜氏が通り、炭、山菜、丹波焼などの日用物資を運んだ街道で、市内を南北に抜ける数少ない道筋。

## 西宮街道

西宮～大市～小林～伊子志～小浜～生瀬

西宮へ米や酒、年貢などを運ぶための道で、馬に荷を運ばせたことから「馬街道」の名もある。小浜は江戸期酒造りでも有名だった。江戸初期には小浜と西宮の間で荷継ぎの権利をめぐって争論も起こった。

## 有馬街道

大阪～伊丹～安倉～小浜～米谷～生瀬～船坂～湯山（有馬）

古くから知られた有馬温泉への湯治の道で、藤原定家や本願寺の蓮如が宝塚市内を通り有馬温泉へ行った記録が残っている。豊臣秀吉も有馬湯治の際にこの街道を通過した可能性がある。

**道標 1**　小林の寛保二年（1742）銘道標

平林寺参道の分岐点に立つ道標で、寛保二年（1742）の銘がある。正面に平林寺本堂と西山道と西宮への抜け道が示されている。

**道標 2**　塩尾寺観音道道標

旧県道と塩尾寺参道の分岐点に立つ道標で、塩尾寺まで 18 丁の距離を示している。（1 丁は約 100m）

**道標 3**　湯本町の塩尾寺参道道標

塩尾寺参道 15 丁を示す道標が 2 本並んで立っている。1 本は明治 32 年（1899）、もう 1 本は大正元年（1912）に立てられたもので、大阪の商人などの寄進によるもの。

**道標 4**　月見橋付近の道標

月見橋のたもとに 2 本並んで立っている。1 本は宝塚大黒を、もう 1 本は宝塚不動尊を示し、不動尊を示した道標の丙子三月は昭和 11 年（1936）のことだと考えられている。

**道標 5**　塩尾寺参道の石燈籠道標

塩尾寺の参道休憩所にある道標で、石燈籠の下に塩尾寺と願主の大坂高砂屋の銘があり、背面には天保十五年（1844）の年号が彫られている。もとは宝塚南口にあったものを移設した。

**道標 6**　巡礼街道沿いの道標

正面に「願主若林嘉兵衛」左面に「すく中山寺」右面に「右荒神道」とある。若林嘉兵衛は灘の酒屋で、このほかにも同人が立てた数本の道標が残っている。

**道標 7**　中山寺山門前安政二年（1855）道標

中山寺の山門前にある西国巡礼の「花山院道五里半」と刻まれた道標で、安政二年（1855）の銘がある。このそばに「清荒神王道十二丁」の道標が並んでいる。

**道標 8**　中山寺華蔵院庭内道標

永正 14 年（1517）に立てられた丁石を天和 3 年（1683）に道標として再利用したもので、「右ハきよ水、左ハひやうご（ひょうご）道」の銘が背面にある。市内最古の丁石で宝塚市指定文化財。

**道標 9**　中山寺奥の院への丁石

中山寺の西の墓地付近から奥の院へ至る 18 丁の間に 1 丁おきに 18 本の丁石が立っている。享保 19 年（1734）に辰巳休海によって立てられたもの。また、信徒会館の西に「左本山道是ヨリ十八町」の道標があり同一人によって立てられたものである。

**道標 10**　巡礼街道沿いの道標

中山寺を示す大きな道標で、「す久（すぐ）中山寺道」と大きな字で記されている。宝暦三年（1753）の銘があり、妙玄寺の法界石とともにしだれ桜のそばにある。

**道標 11**　丹波街道沿いの道標

巡礼街道と丹波街道の分岐点に大阪御瀧講の人々によって立てられた。右面には最明寺まで８丁の道程が示されている。

**道標 12**　満願寺の天保六年（1835）銘道標

丹波街道の途中にある道標で、昭和 49 年（1974）谷に落ちていたのを見つけ引き上げた。天保六年（1835）の銘があり、正面に「右満願寺多田　左たん者みち」とある。たん者は丹波のこと。

**道標 13**　旧和田家住宅内道標

もと小浜の東口にあったもので、「右西の宮　兵庫道」とあり、弘化三年（1846）の銘がある。和田家ゆかりの和田源右衛門が造立したもの。

**道標 14**　小浜皇大神社前道標

小浜から播磨の清水寺へいく道筋に立てられた道標で、「右きよ水」とあり、両側に干支と下方に願主の干支と性別が書かれている。

**道標 15**　小浜宿資料館内道標

もと小林３丁目にあった道標で、小浜から西宮に向かう街道沿いの道標で、元禄十五年（1702）の銘があり、左面には小浜と有馬方面への案内がある。

**道標 16**　小浜の元禄十五年（1702）銘道標

正面に「従是右昆陽寺行」、右側に「きょうき与尼崎江」。きょうきは行基のこと。平成８年（1996）道路工事の際、地表下から出土した。

**道標 17**　小浜の西宮街道沿いの道標

小浜南口から首地蔵に向かう角にあり、伊子志を経て西宮へ向かう道筋が示されている。貞享四年（1687）の銘。

**道標 18**　安倉の享保二十一年（1736）銘道標

有馬街道が宝塚市へ入った場所に所在する道標で、右へ行くと天神川沿いに中山寺へ、左へ行くと小浜、有馬方面であることを示している。

**道標 19**　長谷大池畔の道標

正面中央に南無阿弥陀仏と彫り、「右ながたにさそ利」「左たかひら三田」とある。出雲の行者を世話した村人が立てたと考えられている。

**道標 20**　西国三十三所供養道標

寛政４年（1792）に立てられたもので、正面に「右さそりむつのせ」「左はず川」とあり、三田の木器に至る道筋にあったもの。

**道標 21**　大原野の文化十年（1813）銘道標

波豆～大原野～銀山の道筋の分岐点に立っており、正面に「右池田伊丹」「左多田院妙見」とある。背面には力士の四股名「常盤山」の銘が入っており、その供養のために立てられたものと考えられている。

**道標 22**　波豆の文久三年（1863）銘道標

ドライブイン千刈の庭内にあるもので、正面に「右清水　左三田道」右面に「すく妙見」とある。「すく」は「まっすぐ」の意。

**道標 23**　切畑の四つ辻道標

矢印で、正面に「武田尾四十丁」左側面に「いぶち銀山ひろね」とある。

## 道路元標

道路の起終点を示す柱で道路の附属物である。大正８年（1919）の道路法施行令によって定められた。内務省令により幅・奥行き 25cm 高さ 60cm、頭部はアーチ形と決められていたが、旧川辺郡のものは頭部の先端がややとがっている。阪神間で旧村全部の道路元標が遺存しているのは宝塚市のみ。

**道路元標A**　武庫郡良元村道路元標

**道路元標B**　川辺郡小浜村道路元標

**道路元標C**　川辺郡長尾村道路元標

**道路元標D**　川辺郡西谷村道路元標

ちょこっと

# たからづかガイド

## 宝塚市の名前の由来

「宝塚」という地名は古墳に由来するという説があります。それは江戸時代中頃、大阪の地理研究家であった岡田徯志が記した「摂陽群談」という摂津国の地誌に記載されていることによります。そこには「旧米谷村に塚があり、この塚のもとで物を拾うと必ず幸せになったため、宝塚と呼ばれていた。」と記されており、これが地名の由来になったと考えられているものです。

## 宝塚歌劇と温泉

〔宝塚大劇場〕

宝塚駅を降り、花のみちを通ると赤レンガの屋根が特徴の宝塚大劇場が見えてきます。この大劇場を本拠地としている宝塚歌劇団は、大正 3 年（1914）に宝塚少女歌劇として、箕面有馬電気軌道（現阪急電鉄）創始者の小林一三氏の手により入浴施設宝塚新温泉の余興として始まりました。

明治 44 年（1911）に開設された宝塚新温泉は、少女歌劇の成功により大きく発展し、大正期にはレジャー施設を拡幅して宝塚ルナパークを開園しました。昭和になると少女歌劇では日本初のレビュー「モン・パリ」を上演し大ヒットしました。昭和 15 年（1940）に少女の名を外し「宝塚歌劇団」と改称しましたが、その翌年に太平洋戦争が始まります。戦中の一時期、大劇場の閉鎖や温泉施設の軍による接収など苦難の時期もありましたが、戦後接収解除とともに復活しました。昭和 35 年（1960）には開園 50 周年を記念し、宝塚新温泉は宝塚ファミリーランドと改称するなどして街はにぎわいました。

こうして親しまれた宝塚ファミリーランドでしたが、平成 15 年（2003）に惜しまれつつ閉園しました。今でも、平成 26 年（2014）に宝塚歌劇の 100 周年を迎えた宝塚大劇場やその周辺は、華やかな賑わいのある空間ですが、数少なく残る温泉施設にはかつての名残をみることができます。

ときめく日々が、たからもの。宝塚

**発行　宝塚市教育委員会　社会教育課**

〒 665-8665　宝塚市東洋町 1 – 1　電話 0797–77–2029

平成30年（2018）3 月発行